

災害の概況と推移

火災 - Fire -



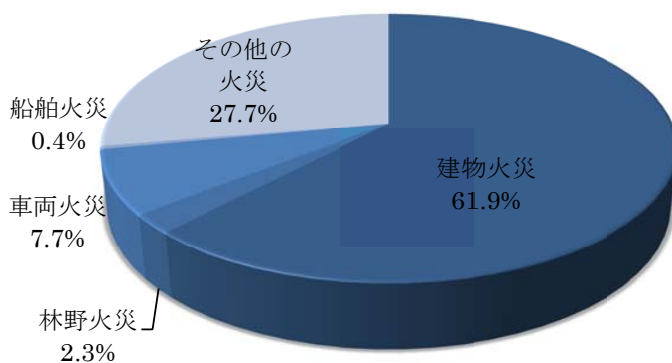
1 火災発生内訳（平成 30 年中）

平成 30 年中に広島市消防局管内で発生した火災は 260 件で、これにより 10 人の死者と 49 人の負傷者が発生した。また、損害額は合計で 5 億 3,961 万円、建物の焼損面積は 4,068 m²であった。

火災種別で見ると、「建物火災」が 161 件で約 6 割を占めており、その損害額は損害額全体の約 8 割となっている。

区分	年別	平成 30 年	平成 29 年	増減
火災件数（件）		260	316	△56
建物火災		161 (61.9%)	204 (64.6%)	△43
林野火災		6 (2.3%)	4 (1.3%)	2
車両火災		20 (7.7%)	20 (6.3%)	-
船舶火災		1 (0.4%)	0 (0.0%)	1
その他の火災		72 (27.7%)	88 (27.8%)	△16
損害額（千円）		539,614	474,180	65,434
建物焼損面積（m ² ）		4,068	4,082	△14
林野焼損面積（a）		399	14	385
死者（人）		10	8	2
負傷者（人）		49	60	△11

【火災発生原因の内訳】



2 過去10年間の火災件数等の推移

出火原因の推移を見ると、「放火・放火の疑い」による火災は、昭和61年から平成25年まで29年連続で出火原因の第1位となっていたが、平成26年は出火原因の第2位となった。しかし、平成27年から「放火・放火の疑い」による火災が再び出火原因の第1位となっている。

年別	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
火災件数	506	514	479	395	420	378	305	299	316	260
損害額 (10万円)	8,140	6,003	5,163	4,940	7,898	6,359	4,488	4,905	4,742	5,396
建物焼損 面積 (㎡)	8,326	5,545	5,804	3,953	7,311	5,700	5,188	3,358	4,082	4,068
死者 (人)	13	12	11	12	9	30	20	5	8	10
負傷者 (人)	65	62	55	60	50	65	64	54	60	49

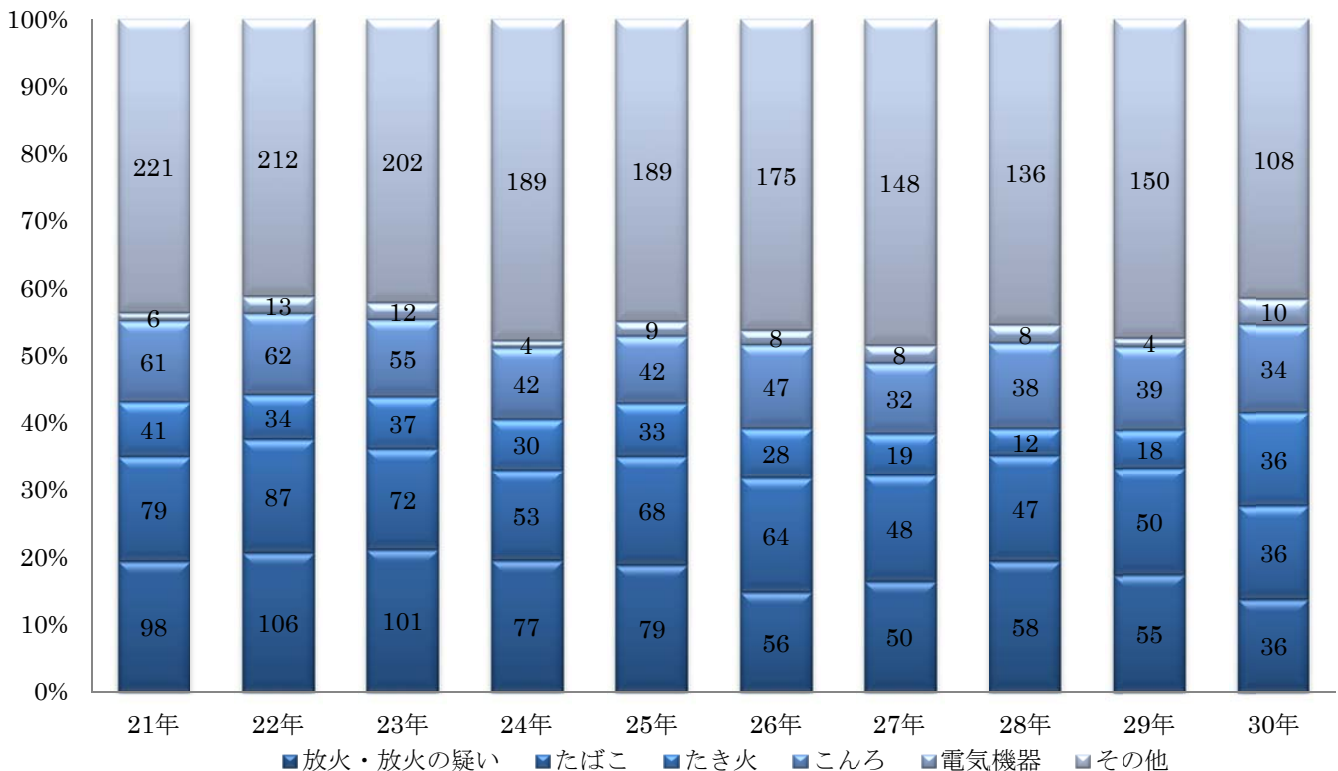
3 出火原因別火災件数 (平成30年中)

平成30年中の火災を出火原因別にみると、「放火・放火の疑い」・「たばこ」・「たき火」が36件(13.8%)で最も多く、次いで「こんろ」が34件(13.1%)、「電気機器」が10件(3.8%)となっている。

区分	総数	放火・放火の疑い	たばこ	たき火	こんろ	電気機器	その他
件数	260	36	36	36	34	10	108
構成比	100%	13.8%	13.8%	13.8%	13.1%	3.8%	41.5%

4 過去10年間の火災原因の構成比

単位：件



救助 - Rescue -

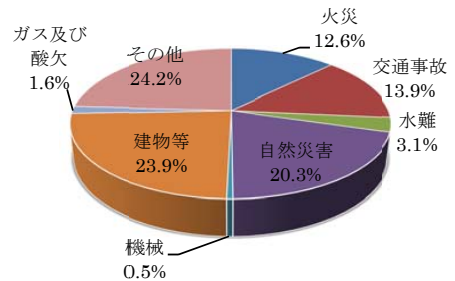


1 救助件数内訳（平成30年中）

平成30年中の広島市消防局管内の救助件数は、1,159件で、前年の913件と比較して246件の増加となった。

件数の内訳は、建物内への閉じ込めなどが該当する「建物等による事故」が277件で全体の24%を占め、続いて「風水害等自然災害事故」が235件（20%）、「交通事故」が161件（14%）となっている。

【救助件数の内訳】

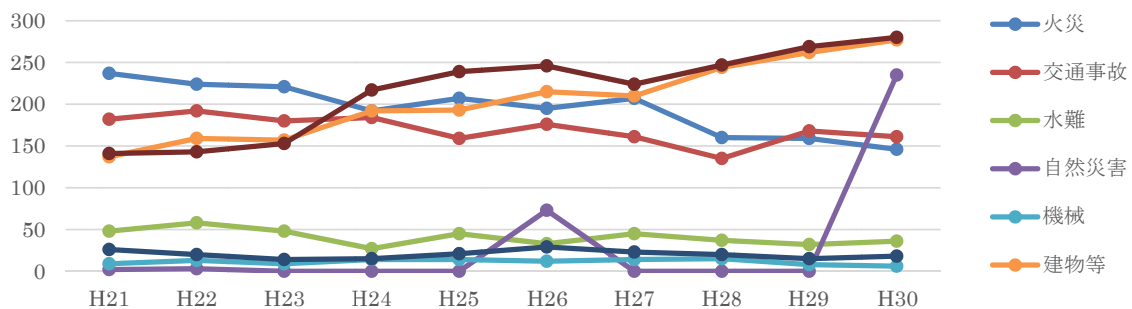


2 過去10年間の救助件数の推移

過去10年間の救助件数の推移をみると、平成21年の781件に対し約48%の増加となっている。

年別	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
救助件数	781 (100)	812 (103)	782 (100)	841 (107)	878 (112)	979 (125)	884 (113)	858 (109)	913 (116)	1,159 (148)	
内 訳	火災	237 (100)	224 (94)	221 (93)	192 (81)	207 (87)	195 (82)	207 (87)	160 (67)	159 (67)	146 (62)
	交通事故	182 (100)	192 (105)	180 (98)	184 (101)	159 (87)	176 (96)	161 (88)	135 (74)	168 (92)	161 (88)
	水難事故	48 (100)	58 (120)	48 (100)	27 (56)	45 (93)	33 (82)	45 (93)	37 (77)	32 (66)	36 (75)
	風水害等 自然災害	2 (100)	3 (150)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	73 (3,650)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	235 (11,750)
	機械に よる事故	9 (100)	13 (144)	9 (100)	14 (155)	14 (155)	12 (133)	14 (155)	15 (166)	8 (88)	6 (66)
	建物等に よる事故	137 (100)	159 (116)	157 (114)	192 (140)	193 (140)	215 (156)	194 (153)	244 (178)	262 (191)	277 (202)
	ガス及び 酸欠事故	25 (100)	20 (80)	14 (56)	15 (60)	21 (84)	29 (116)	21 (92)	20 (80)	15 (60)	18 (72)
	その他の 事 故	141 (100)	143 (101)	153 (108)	217 (153)	239 (169)	246 (174)	242 (158)	247 (175)	269 (190)	280 (198)

【備考】 () 内は、平成21年を指数100として表した数値である。



救急 - Ambulance -

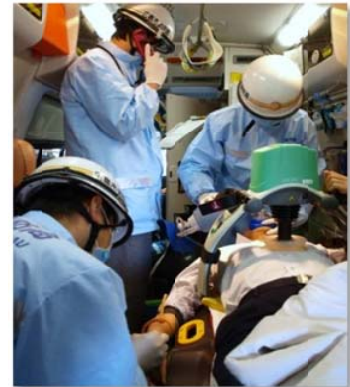


1 平成 30 年中の救急出動件数の推移

平成 30 年中の出動件数は、61,865 件で、前年と比較すると 2,113 件 (3.5%) 増加し、搬送人員は 51,783 人で 792 人 (1.6%) の増加であった。これを一日に平均すると約 170 件出動し、約 142 人搬送したこととなり、約 9 分に 1 件の割合で救急出動がされたこととなる。

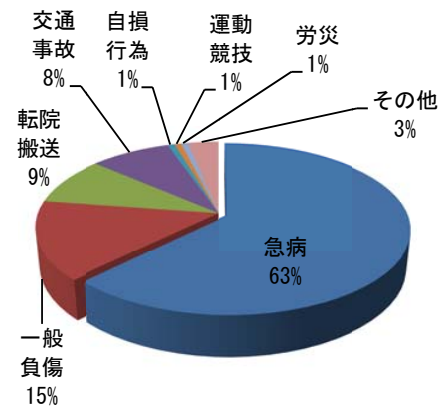
事故種別で見ると、「急病」が 38,693 件で最も多く、全体の約 6 割を占めており、前年と比較して 1,933 件の増加となった。次いで多いのは「一般負傷」で 9,166 件、「交通事故」は 5,104 件となっている。前年と比較して「一般負傷」は 139 件の増加、「交通事故」は 197 件の減少となっている。

平成 12 年 4 月 1 日からはヘリコプターによる救急搬送業務を開始しており、平成 30 年中は 66 件救急出動し、37 人の搬送を行っている。



区分	年別	H30 年	H29 年	増減	増減率
出動件数		61,865	59,752	2,113	3.5%
急病		38,693	36,760	1,933	5.3%
一般負傷		9,166	9,027	139	1.5%
転院搬送		5,664	5,600	64	1.1%
交通事故		5,104	5,301	△197	△3.7%
自損行為		445	484	△39	△8.1%
運動競技		410	373	37	9.9%
労災		443	418	25	6.0%
その他		1,940	1,789	151	8.4%
搬送人員 (人)		51,783	50,991	792	1.6%

【救急出動件数の内訳】



※ 割合は小数点を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。

2 過去の 10 年間の救急件数の推移

区分	年別	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
出動件数		48,189 (100)	51,565 (107)	52,616 (109)	53,500 (111)	55,448 (115)	56,045 (116)	57,746 (120)	57,978 (120)	59,752 (124)	61,865 (128)
急病		27,572 (100)	29,894 (108)	30,928 (112)	31,545 (114)	32,856 (119)	33,365 (121)	35,215 (128)	35,733 (130)	36,760 (133)	38,693 (140)
一般負傷		6,409 (100)	7,119 (111)	7,346 (115)	7,655 (119)	7,972 (124)	8,257 (129)	8,257 (129)	8,458 (132)	9,027 (141)	9,166 (143)
交通事故		6,209 (100)	6,263 (101)	6,200 (100)	6,041 (97)	6,202 (100)	5,842 (94)	5,653 (91)	5,420 (87)	5,301 (85)	5,104 (82)

【備考】 ()内は平成 21 年を指数 100 として表した数値である。